

研修医の  
ための

全国で注目のプロジェクト

# 救急医療教育室が 長崎大学病院に誕生!!!

長崎大学病院では今年4月、初期・2次救急症例を指導する研修医のための専門部署「救急医療教育室」を開設しました。初代室長に就任した長谷敦子先生に、特徴や研修医に学んでほしいことをお聞きしました。

## Q. 救急医療教育室の特徴は？

一つめは、「長崎大学病院と市中病院が連携して、研修医の先生のための救急医療の研修を行う」点です。具体的には、大学病院では緊急度や重症度が高い患者を中心に診療する3次救急を、市中病院では初期・2次（軽症・中等症）救急の症例が経験できます。

もう一つは、「指導医からマンツーマン指導が受けられること」。これにより、各研修医の先生の目的やスキルに合わせて、オーダーメイドの細やかな研修が可能となります。

## Q. 研修はどのようなシステム？

長崎大学病院の救命救急センターをローテート中の研修医の先生が、私と市中病院で輪番当直を行います。当直を通して、プライマリ救急医療の醍醐味を味わえます。



一つひとつの症例を丁寧に、マンツーマン指導で

## Q. 研修医の先生方には何を 学びとってほしいですか？

自分たちの裁量の範囲内でファーストタッチをして、丁寧な診察と問診から、どんな検査をすべきか、どう治療するかというプロセスを見つけ出す面白さ、充実感、



ICLSコースやジャンプOSCEなどで研修医の指導にあたってこられた長谷先生。若手女性医師の憧れの存在です

そして決断する責任感を味わってもらいたいですね。もちろん上級医が付きますので安心して臨んでください。

また、初対面の患者さんの要求に応えられるコミュニケーション能力を養う場でもあります。何を目的に来院したのか、パソコン画面を見たまま話をしたり、検査結果ばかり気にしたりしては、その問題を見抜けません。患者さんとのコミュニケーションは毎回が一本勝負。体験するほどに引き出しは増えるでしょう。

さらに、たくさんの軽症例にまぎれてくる重症例を見つけ出せるようになってほしいですね。最初は一筋縄ではいきませんから、直接診た症例だけではなく、たくさんの先輩医師や他職種スタッフとふれ合い、経験談を聞いてほしいですね。聞く経験も非常に重要です。そう考えると、研修医の先生にとって市中病院の救急外来勤務は学びの宝庫といえるでしょう。

### 長谷 敦子（ながたにあつこ）

長崎県生まれ。長崎大学病院救命救急センターの副センター長・准教授を務め、2014年4月から同室長に就任、教授となる。

資格 日本麻酔科学会指導医／日本救急医学会指導医、日本蘇生学会指導医／JATECインストラクター及びインストラクタートレーナー／DAMインストラクター／ICLSコースディレクター

マッチングは長崎大学病院で！ぜひ見学に来てください♪

長崎大学病院 医療教育開発センター

救急医療教育室

で

検索

TEL : 095-819-7847 / FAX : 095-819-7882 E-mail : kaihatu@ml.nagasaki-u.ac.jp